編集後記

前回，編集後記を書いたのは 124 巻 10 号（令和 4 年 10 月号）であったので，ここに書くのはほぼ 2 年ぶりである．

これはあくまで編集子の視点からであるが，わずか 2 年のうちに，編集委員会も大きく変わった．変化の原因はおそらく，インターネット環境の発展と働き方改革，さらにはコロナ禍が拍車をかけさせた可能性も高い．むろん，それらとは関係のないところで起きた変化もあったが．

まず編集子が最初に挙げたいのは，編集委員長が大森哲郎先生から中尾智博先生に代わられたことである．大森前委員長のご勇退が令和 4 年 11 月であったので，もう 2 年近くたつのであるが，編集子がはじめて編集委員となったときの編集委員長であったので，この場を借りて，長い間お疲れ様でしたと感謝の言葉を述べたい．

次に，日本精神神経学会の本部（事務局）が本郷から駿河台（御茶ノ水）へと移転した．コロナ禍以降，編集委員会をはじめとしてさまざまな委員会が WEB 会議となり，広い会議室が不要になったために，よりコンパクトな物件に移ったと側聞している．これもおそらく時代の流れで，大企業なども本社の社屋をダウンサイズ化したため，都心のオフィスビルが空いているというニュースが少し前にあった（なぜか最近は聞かないが）．2 年前の編集後記で，「本郷三丁目の駅から迷うことなく学会本部に行ける自信がない」と書いているが，結局，コロナ禍以降，本郷の（旧）学会本部に行くことは叶わなかった．コロナ禍以前は，東北の田舎から華やかな都会の学会本部に毎月来るのを密かな楽しみにしていた編集子であったのだが．

3 つめの変化として，これまで長きにわたって第 1 土曜日の午後に行われていた編集委員会が，今年から平日の夜に移ったことが挙げられる．これは，働き方改革の 1 つで，本学会でも，委員会活動の基本方針として，平日昼間または夕方の開催を基本とする旨が決められた．時代の流れでもあり，編集子もこのことに関して異論はない．それどころか，休日が潰れないので，諸手を挙げて賛成したい所存である．しかし，編集委員を務めておられた先生方のなかには，多忙がゆえに平日の夜はたとえ WEB 会議であっても参加できないという理由で，編集委員を任期途中でご勇退なさった方も何人かおられた．編集子は閑職ゆえ，平日の夜は比較的空いており，引き続き委員を務めているが．

なお，編集委員会は現在も引き続き WEB 会議形式である．コロナ禍以前は対面式の会議であったので，他の委員の先生方とリアルで話す機会があったが，最近は他の委員の先生方と対面でお話しするのは，学術総会での編集委員会主催のシンポジウム/ワークショップのときぐらいになってしまった．ちなみに，最近の変化として，WEB 会議用のアプリが Webex（Cisco Webex Meetings）から Zoom に変更となった．

最後に，編集委員会全体が若々しくなった（委員の平均年齢が下がった）ことを紹介したい．もともと編集委員の任期は 3 年で，1 年半ごとに半数の委員の先生方が改選となる．これまでは編集子を含め多くの委員の先生方が留任となり，数名の先生方が新しく委員に加わるといった形が多かったのであるが，今年 5 月の改選では，多くの若手の先生方に編集委員会に加わっていただいた．6 月からは若い力がみなぎる「シン・編集委員会」となったわけである（編集子のようなアラ還委員もいるが）．

今後の本誌のさらなる発展にご期待あれ．

山田和男